

2023.10.27^金-29^日

ヌトミック
+
細井美裕

着いたう

着いたう

着いたう

着いたう

着いたう

着いたう

着いたう

着いたう

着いたう

着いたう

愛知県
芸術劇場
小ホール

主催
製作
企画制作：
愛知県芸術劇場

着いたう

着いたう

着いたう

着いたう

辿り着いたうねりと、遠回りの巡礼

日程

10月27日(金) 19時 — 20時30分
 10月28日(土) 11時 ● — 12時30分 ●
 17時 — 18時30分
 10月29日(日) 11時 ★ — 12時30分
 15時30分 — 17時

● 託児サービスあり
 ★ 鑑賞サポートあり

(視覚障がいのある方への舞台の事前説明)
 ※各公演定員20名程度
 ※上演時間：約30分
 ※開場は開演の15分前

会場

愛知県芸術劇場 小ホール
 (愛知芸術文化センター地下1階)

チケット

全席自由(税込)
 ●一般 1,000円
 ●U25 500円

※U25は公演日に25歳以下対象(要証明書)
 ※車いすでご来場の方はチケット購入後、劇場までご連絡ください。
 ※未就学児入場不可。
 ※やむを得ない事情により、内容・出演者等が変更になる場合があります。

チケット取扱い

●愛知県芸術劇場
 オンラインチケットサービス
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event>



●愛知芸術文化センター
 プレイガイド(地下2階)

TEL 052-972-0430

10時・19時 土日祝休 10時・18時
 (月曜定休/祝休日の場合は翌平日)

チケット発売日

9月15日(金)10時〜

鑑賞サポート

視覚に障がいがあるお客様へのサポート
 ●事前にプログラムのデータをEメールでお送りできます。
 ●10月29日(日)11時公演の開演前に、視覚に障がいのあるお客さまを対象にした舞台の事前説明を行います。
 ご希望の方は、前日までに劇場事務局(問合せ先)までご連絡ください。



託児サービス

対象：満1歳以上の未就学児
 料金：1名につき1,000円(税込)
 申込締切：10月21日(土)
 託児申込：オフィス・パレット株式会社
 TEL 0120-353-528
 携帯電話からは052-562-5005
 受付時間：平日9時・17時
 土9時・12時(日祝休み)

クレジット

テキスト・演出：額田大志 ※
 サウンド・演出：細井美裕 ※
 テクニカルディレクター、サウンド・ライティングシステム：伊藤隆之
 出演：長沼航 ※、深澤しほ ※、原田つむぎ ※
 ※ヌトミック
 舞台監督：世古口善徳(愛知県芸術劇場)
 照明：鷹見茜里(愛知県芸術劇場)
 宣伝美術：田中せり
 制作：村松里実
 プロデューサー：山本麦子(愛知県芸術劇場)

助成：文化庁文化芸術振興費補助金

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)一独立行政法人日本芸術文化振興会
 協力：高原文江(山口情報芸術センター「YCAM」)、一般社団法人ベンチ、有楽町アートアーバニズムYAU、みんなのひろば

主催：製作・企画制作/お問合せ：愛知県芸術劇場

461-85525 名古屋市中区東桜1-13-2
 TEL 052-211-7552(10時・18時)
 FAX 052-971-5541
 Mail contact@aaf.or.jp
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp>



「マルチチャンネルスピーカーと身体のための演劇作品」とは？
 アーティストインタビュー

「演劇」インスタレーション

額田：今回、改めて「劇場でやる」というのはどういふことか、ながでできるのか、どんな意味があるのかを考え直しています。今回の創作で常に意識している部分ですね。

細井：普段はインスタレーションとして、人(出演者)がいない作品を作ってきたので、普段は見る側である人間がスピーカー、つまり表現媒体になるということもはとて難しくて面白いです。スピーカーと人が並ぶとやはり人間を見てしまし、感覚的に強く入って来ますよね。

インスタレーションはある程度お客さん側が時間の使い方や見方を自分で決められるから、作り手は作り手で、自分で表現を選ぶことが出来るともいえます。舞台でのパフォーマンスは観客と同じ時間や空間を共有する必要があるのですが、観客がいる空間でどういふコミュニケーションが起こるか、どう見えるか、どう考えられるか、ということを観客の立場に立つて考える必要がありますよね。観客と直接話すという意味ではなく、非言語で長いタイムラインのコミュニケーション、自分ではない身体について考える体験が興味深いです。

額田：一人で作品を観ている体験と、みんなで観ている体験はかなり違う、と
 思っているんですね。人と観ていると
 他の人が「こんなところ面白く思うんだ」
 とか発見があったりしますよね。作品と
 自分で完結する世界ではない、観客同士
 の間で起きる相互作用。今回の作品も
 じっくり一緒に観る、同じ時間一緒に集中
 する緊張感という共有して生まれるも
 のがあると思います。
 メディアの形態として今回の作品はイン
 スタレーションに近いのかもしれない。

「マルチチャンネル」

細井：私は合唱からキャリアをスタートしたので音源が沢山ある、という環境を一人でつくることを考えたなら、それがマルチチャンネルだったただけなんです。でもやればやるほど「マルチチャンネル」というとコンテンツとして期待される部分がある、そこに切り込んでいきたいとずっと思っていました。

マルチチャンネルスピーカーってスピーカーが沢山あるというイメージがあると思うんですが、それは視覚的な強さに引張られているとも言えます。それはすぐ飽きられるし実は弱いものです。

今回、スピーカーが持っていた特権をばざとりたいたいと思っています。スピーカーの暗黙知を壊したい。例えば、俳優だったら日常で会う人と舞台上にいる人は違うと認識されますよね。じゃあ、非日常のスピーカーとは、を考えるためにどうしたら良いか？って考えています。スピーカーの手前、鳴らす前のいろいろ、音源の作りこみとか、生でマイクを使ってしゃべるとか、いかに舞台上に裸のままスピーカーを放り出せるか、普段見ない、無視しているもの、思い込んでいるものをばがして見せるかの挑戦です。

額田：今まさにテキストを作っているんですが、自分がヌトミック結成のきっかけになった作品「それからの街」にどこか似ているかもしれないと思っています。使っているモチーフ、手法とか…色々やってきて、原点回帰したというか。シンプルに一つの音源で、と決めたことと呼応するような、作家として色々巡ってやっぱりここにたどり着いた、という感触があります。もちろん当時よりもっとブラッシュアップされているとは思いますが、昔から見ていただいている方もその部分も楽しんでいただけたらと思います。

インタビュー全編はこちらから▼

